

# CLTパネル工法を構築

## 三宅辰哉

朝倉幸子◎TH-1  
illustration:Taco

### ■名古屋工業大学

三宅辰哉さんは岐阜県の生まれ。堅実で真面目といわれる岐阜の県民性を表すような話しぶりだ。建築を選んだのは父親からの影響がある。が、父親が建築技術者だったのではなく、住宅に使う襖（フスマ）などを量産できる仕様に考えてつくり販売する起業家だった。建築の分野で斬新な商売をする父の姿がインプットされたのか、建築志向になり名古屋工業大学に入る。「建物を成立させるためには構造が要だ！」と、福知研究室で鋼構造を学ぶ。当時の最新鋭の大型コンピュータを学生も使えたのが「名工大」であったのです。

1980年に卒業して、就職は福知教授の紹介で教授の学友が社長をしている東京の設計事務所の日本システム設計に決めた。そして、勤務を続けながら入社後16年の1996年に、耐震研究で工学博士の学位を取得する。東京から母校の名古屋工業大学に通い、3年で達成したという実力派です。

### ■日本システム設計

「建築の設計をシステムティックにするという意味のシステムなのです」と櫻井郁子さんがいう。櫻井さんは日本システム設計で常務取締役をしている。新入社員だった三宅さんと、小学生の時に創業社長の姪として会っているそうだ。25名のスタッフを三宅さんは技術面、経理などの分野は櫻井さんが仕切る。チームで率いる経営体制が整っているのは、技術者として第一線で活躍し続ける三宅さんには幸運な働き方だ。「日本システム設計の二代目代表取締役を引き受けてから

15年になります」と感慨深い。

創業者の是木健会長は日建設計に在籍していた。構造でバレスサイドビルに関わる20代を過ごしてから会社を起した。個人ではなくチームで設計を行う建築設計事務所を目指す。重要なのは複雑で難しい建築設計を簡単で早くできること。現場合わせではなくシステムティックに部品を組み上げて建築にすることである。

三宅さんが参加してから「ハウス55」の工業化住宅プロジェクトなど、研究的建物を通して材料メーカーとの共同開発の窓口も広がった。システムティックにする仕組みで最も重要なのは「考え方の整備」でチーム力を強化するための「人づくり」だという。「所員さんにはどのように教えているか？」と覇志堂が聞くと「無理にこちらに引き込もうとしません。自分が納得して構造の何が面白くて面白くないか肌でわかるようでない」とね。

### ■CLTとギター

趣味は仕事…という三宅さんが今一番力を入れているのが、CLT (Cross Laminated Timber) だ。2011年から2017年にはCLTパネル工法建築物の構造設計法を構築した。その後も、河合直人工学院大学教授や五十田博京都大学教授らと、CLTを用いた建築物の構造設計法合理化などの活動をしている。まだ日本では初期の段階にあるCLTに関しては国も積極的に動いている。新しい発想で建築をつくっていくことが必要になるから。三宅さんと日本システム設計が本領を発揮していくことだろう。三宅さんは2016年に「振動解析に基づく新たな木質構造の推進」で木質構造研究会の杉山英男賞を受賞している研究者なのです。

櫻井さんが「ギターは趣味ではないのですか？」という。三宅さんは実はセミプロ級のギター奏者の腕をもつ人らしい。「毎日弾いていないと指先が弱くなってしまふ…」と、出勤前のレッスンは欠かせないと明かしてくれた。シャイな笑みがこぼれた構造家で音楽家の三宅辰哉さんなのでした。

